

宮城県の家庭教育支援事業について

宮城県教育庁生涯学習課

家庭教育に期待されること	○基本的な生活習慣や生活能力 ○自制心や自立心 ○他人に対する思いやり ○豊かな情操 ○善悪の判断などの基本的倫理観 ○社会的なマナー 等
現 状 認 識	【家庭教育を巡る現状】 ○核家族・ひとり親家庭の増加・・・親が子育てに関して学ぶ機会の減少、親だけで子育てを担う家庭の増加 ○少子化・・・親による過干渉・過保護の懸念、地域の子どもの遊び集団の消滅、赤ちゃんに接する機会の減少 ○個別の生活や家事の合理化等の家庭生活の変化・・・家庭生活を運営していく具体的な経験や能力の不足 ○都市化・・・地域のつながりの希薄化、家庭の孤立化、自然と触れ合う機会の減少 ○東日本大震災による被災・・・子どもや親に心の傷、経済格差の拡大
	【親が抱える課題】 ○育児不安 ○しつけについての自信喪失 ○過保護・過干渉 ○虐待(放任) ○心のケア 【子どもが抱える課題】 ○人と関わる能力の低下 ○規範力の低下 ○自立の遅れ ○学力・体力の低下 ○心のケア
	【家庭教育支援推進に関わる課題】 ○学校・家庭・地域の連携・協力 ○課題を抱える家庭への効果的な取組 ○社会全体の家庭教育についての理解や取組の推進 ○被災地における家庭教育支援
目 標	全ての親と社会全体の子育て理解を促進するための学習機会や家庭教育に関する情報提供の充実や課題を抱える家庭への家庭教育支援や東日本大災害の被害が甚大な地域での 家庭教育支援の充実を図り、親子の学びと育ちを支援し、社会全体で子育てを支援する環境を整える。
基 本 的 な 考 え 方 と 具 体 的 方 策	【親が主体的に家庭教育を行うことの支援】 ○家庭教育に関する学習機会の提供 ・親の学び塾、企業への出前講座、親になるための講座(家庭教育サポートチーム) ○親の学びプログラムの作成 ○教育相談体制づくり ・子育てサロン、課題を抱える家庭への訪問(家庭教育サポートチーム) ○家庭教育に関する情報の提供 ・生涯学習課HPによる情報提供 【子どもの発達支援】 ○社会の一員としての自覚をもつ子どもの育成を目指し、家庭の教育力を補完する様々な体験活動の充実 ・地域活動(自然体験、異世代・異年齢交流、生活体験、社会体験、困難体験 親子体験活動等) ・体験プログラム(防災活動を含む)の開発
	【地域で親を支える仕組み(協働教育)づくり】 ○協働教育の推進と人材育成 ・市町村の協働教育プラットフォーム事業の推進 ・子育てサポーター・サポーターリーダー等の養成 ○父親の家庭教育参加の促進 ・ おやじの会のネットワークづくり ・PTAの活動支援 ○社会全体で子育てすることについての意識啓発と環境醸成 ・みやぎ教育応援団事業 ・家庭教育認証企業制度

＜宮城県教育庁生涯学習課＞ 宮城県の家庭教育支援事業について

※活動姿勢『子どもの生活習慣やしつけに悩む親たちを地域ぐるみで応援します』

※取組

- ・「親の学びのプログラム」の作成（別紙参照）
- ・子育てサポーター養成講座の実施

子育てサポーターとは

地域において、主に幼児、小学生、中学生の子をもつ親等に対し、家庭教育について、友人のような関係で気軽に相談にのったり、アドバイスを行ったりする人のこと。

平成24年度宮城県子育てサポーター養成講座

会場 大河原教育事務所管内：大河原合同庁舎、仙台教育事務所管内：仙台合同庁舎
北部教育事務所・栗原地域事務所管内：大崎合同庁舎・栗原文化会館
東部教育事務所・登米地域事務所管内、南三陸教育事務所管内：登米合同庁舎
講義・演習 情報交換等 各管内3日間12時間程度
受講料 受講料は無料。ただし、交通費・昼食代等は個人負担。
参加対象者 平成22・23年度受講者、協働教育プラットフォーム事業実施市町村家庭教育サポーターチーム員、市町村行政担当者（教育委員会及び保健福祉部局等）、派遣社会教育主事等

今年度受講数 約100人

- ・子育てサポーターリーダー養成講座の実施

子育てサポーターリーダーとは

家庭教育支援の充実を図るため、子育てサポーターの中心的な役割を果たすリーダーのこと。

平成24年度宮城県子育てサポーターリーダー養成講座

会場 本町分庁舎（漁信基ビル）
受講料 受講料は無料。ただし、交通費・昼食代等は個人負担。
参加対象者 市町村で家庭教育・子育て支援者として現在活動し教育委員会から推薦された方、協働教育プラットフォーム事業実施市町村家庭教育サポートチーム員及びコーディネーター（原則として県主催の子育てサポーター養成講座等を修了した方で4回受講できる方）、市町村行政担当者（教育委員会及び保健福祉部局等）、派遣社会教育主事

今年度受講数 約30人

- ・学びを通じた被災地のコミュニティ再生支援事業の実施「宮城県放課後子ども教室」（「放課後児童クラブ」は子育て支援課の放課後子どもプラン事業になります）

「放課後子ども教室」の趣旨

すべての児童を対象とし、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動・地域住民との交流活動等の取組を推進する。

「放課後児童クラブ」の趣旨

おおむね10歳未満の児童に対して、放課後に適切な遊びや生活の場を与えて、その健全な育成を図る。

家庭教育支援にかかる宮城県の施策体系～『親の学びのプログラム』骨子～

宮城県教育庁生涯学習課H24.7

宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画（平成23年度～平成25年度）	
宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画（将来ビジョン・33の取組）	震災復興実施計画（震災復興計画7分野）
取組14 家庭・地域・学校の協働による子どもの健全な育成	6 教育 ②家庭・地域の教育力の再構築 ③生涯学習・文化・スポーツ活動の充実

新みやぎ子どもの幸福計画（後期計画）8つの施策

- 5 子どもの成長を支える教育の推進
- (1) 幼児教育の充実と「学ぶ土台づくり」の推進
- (3) 家庭や地域の教育力の向上
- (6) 次代の親の育成

宮城県教育振興基本計画

- 目標3 学校・家庭・地域の教育力の充実と連携の強化を図り、宮城の豊かな教育資源を生かしながら、社会全体で子どもを育てる環境をつくる。
- 基本方向5 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり
- (1) 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり【重点的取組8】
- (2) 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり【重点的取組9】
- (3) 子どもたちの体験活動

学ぶ土台づくり

- 目標1 親子間の愛着形成の促進
- 目標2 基本的生活習慣の確立
- 目標3 豊かな体験活動による学びの促進
- 目標4 幼児教育の充実のための環境づくり

協働教育推進総合計画

学校教育支援	業協働教育プラットフォーム事業	教育応援団事業	協働教育普及・振興事業	協働教育基盤形成事業
家庭教育支援	○家庭教育サポート(支援)チームの設置			
○親の学び塾の開催				
地域活動支援				

(活用)

宮城県親の学びのプログラム『親の道標』

- 【ステージ1】自分育て～「自分と向き合う」
- 【ステージ2】子どもの誕生～「子育て・孤育て」(含:虐待に関する内容)
- 【ステージ3】仕事へ復帰～「不安と問題」
- 【ステージ4】小さな社会へデビュー
～「子どもが保育所・幼稚園に入りました」
- 【ステージ5】ライバル出現～「第2子誕生」
- 【ステージ6】大きな節目～「子どもが小学校へ入学しました！」
- 【ステージ7】育メン・育ジイ時代がやってきた～「お父さん出番です！」
- 【ステージ8】基本的生活習慣の確立～「毎日毎日のことだから…」
- 【ステージ9】あの日を忘れない～「東日本大震災が残した爪あと」
- 【ステージ10】自分育て～「子育ては人育てそして自分育て」
～十人十色～ 人の数だけ子育てがある。子育てに失敗はない。全てが幸せへの道となる方法がある。周りに関わる人全てが子どもの成長につながり、大人の成長にもつながる。このプログラムは親の大人の道標です。

(活用)

- 子育てサポーターリーダー養成講座
- 子育てサポーター養成講座